

おおさか

きなびやの



古来より人々に親しまれ、漫画「ヒカルの碁」のヒットで若い世代にも視野が広がった囲碁。大阪市立みどり小学校(同市鶴見区)は今年度、その囲碁をクラブ活動に取り入れた。プロ棋士が無料で講師を務める、市内の公立小では珍しい試み

という。思考力などを競う囲碁はチェス同様、「マインドスポーツ」とも呼ばれる。大学の頃から囲碁をたしなんでいた宮前慎一校長(59)いわく、妙味は「先の見えない奥深さ」。そして、駆け引きに失敗しても、「次は自分のプランで勝つ」と挑戦を繰り返す先に喜びがあるという。

昨秋、宮前校長は囲碁が趣味という鶴見区長を通じ、プロ棋士団体「関西棋院」が若い世代への普及に力を入れていることを知っ

囲碁クラブ



囲碁を楽しむ児童ら—大阪市立みどり小学校提供

大阪市立みどり小学校

創意工夫の力など培う

た。棋院の協力を受けて、今年2月、3、5年生児童約180人を対象にプロ棋士による入門教室を開催。今年度から希望した28人でクラブが発足した。活動は年14回、1回45分の授業。四段のプロ棋士に加え、囲碁好きの図書館ボランティアが講師役で協力する。礼儀作法やルールだけでなく、コミュニケーション、創意工夫の力を児童が自ら培っていくことを期待する。

初心者だった5年の高松夕凪さん(11)は対局を重ねるうちに、自分なりの戦法を発見する楽しさに目覚めた。「囲碁を教える側になり、新しく入ってきた人に楽しさを伝えた」と話す。宮前校長は「引き継いでいくという気持ちがあるといい。今後もクラブを続け、地域の囲碁愛好者たちとも交流していきたい」と抱負を語った。

【千脇康平】